

第3次北秋田市総合計画策定に係る 中学生ワークショップ「きたあきたしNEXT」 実施報告書

株式会社NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

目次

1. 開催概要
2. 統計データからみる北秋田市の地域特性
3. まちの将来像および今後の課題

【参考】参加者アンケート集計結果

1. 開催概要

第3次北秋田市総合計画の策定にあたり、北秋田の中学生とこれからのまちづくりについて一緒に考える中学生ワークショップ「きたあきたしNEXT」を開催しました。開催概要は以下のとおりです

開催目的	➤ 第3次北秋田市総合計画策定過程において、中学生の参画を得て、日々の暮らしの実態や北秋田市についての思いなどを語りながら未来の北秋田市について考えるワークショップ ➤ 中学生という若者の視点から、普段の生活で感じていることやこれからのまちづくりに関する意見を広く収集し、総合計画の検討に活用するために開催
開催日時 会場	➤ 日時：令和7年2月18日(火) 14:00～16:00 ➤ 会場：北秋田市民ふれあいプラザ コムコム 多目的ホール
参加者 構成	➤ 鷹巣中学校、森吉中学校、合川中学校、義務教育学校阿仁学園の代表者3名（生徒会役員等）：12名程度 ※4名×3班のワークショップ形式での開催

2. 統計データからみる北秋田市の地域特性(1/2)

WS参加者に地域経済に関する統計や地域幸福度指標（地域における幸福度や生活満足度、暮らしやすさを測るための指標）を確認いただき、これら統計データからみた北秋田市の地域特性に関して意見をいただきました

分野	意見
自然の恵み ／環境共生	■ 自然豊かなまちで水資源などが豊富 ・ 公園が広いことや雨水や河川水などを貯める力が高いことが改めて分かった ・ 家の敷地が広いという数値の通り、住みやすい環境とのどかな環境であると考えている ・ ゴンドラからみる森吉山の景色がとてよく、冬に見ることができる樹氷も美しい
人口当りの の娯楽施設	■ 人口あたり娯楽事業所数の多さは野球場の多さが要因か ・ 指標をみると劇場や野球場が多いとあるが、他の自治体に住んだことがなく比較できないため知らなかった ・ 部活に取り組む中で野球場は多くあると感じていた ・ 人口あたり娯楽事業所数が多いとのことだが、あまり知られていないのではないか。周りの学生もゲームセンターや買い物ができる大館市によく子ども向けの遊び場は行っている印象がある
選挙の 投票率	■ 市民は選挙への関心が高い傾向にあり、子どもたちにも一定の傾向が継承されている ・ 首長選挙や議会選挙への投票率が高くなっていることがわかった ・ 家族は、毎回選挙に行っているので、選挙に行くのは当然のことだと思っていた ・ 選挙権を得たら投票に行ってみたいと考えている

2. 統計データからみる北秋田市の地域特性(2/2)

(続き)

分野	意見
空き家	■ 空き家の多さは認識されており、生活上の安全・安心への不安がある ・ 近所をみると空き家が多いため、納得感がある ・ 空き家が多いと劣化するため、倒壊などの危険性があると思う ・ 実際に積雪で倒壊した空き家があり危険であると感じていた ・ 空き家を利活用して子どもが集まれるような施設を作ることはいできないか。秋田県内に廃校となった小学校を子どもの遊び場に転用している場所があるので、空き家についても利活用を進めてほしい
交通	■ 公共交通の利便性には課題感があり、改善への期待感が高い ・ 交通機関の便数が少ないため、予定便を逃すと出かけようと思っても行けない場合がある ・ 交通機関を使って行ける場所が広がってほしい ・ 自家用車を運転することができない高齢者などは、不便さを感じている可能性がある

3. まちの将来像および今後の課題（1/3）

当市に住み続けたいかという点について、各班（3班）から意見をいただきました。当市に住み続けたいという意見が多く確認された一方で、進学や就職の際に当市を離れなくてはならない可能性に言及する声も聞かれました

	意見
北秋田市に住み続けたいと思うか	■ 安全・安心が担保されており、住民の互助精神も育まれている ・ 犯罪や事故も少なく、地域全体の見守り機能があるため、住んでいて安心できるこの町に住み続けたい ■ 進学や就職で北秋田市を離れるが、将来的には戻ってきたい ・ 就職をする際には、企業が集積している都市に引っ越すことになると思うが、北秋田市が好きなので、将来的には帰ってきたい ・ 高校に進学する場合市内に1校しかないため、北秋田市に住みながら市外の高校に行きたいと思っている。しかし、車が好きなので、車関連の産業が市内にあれば将来北秋田市で働きたいと思っている ・ 高校や大学への進学は北秋田市外で考えている。しかし、都会と比べて北秋田市はゆとりがあり住みやすく、好きな環境と感じているので、将来は北秋田市に住みたい ■ 住み続けたいと考えているが、進学や就職を考えると定住が難しい一面も ・ 住み続けたいが、若者が集まる場所の少なさや選ぶことができる仕事の種類が少ないため難しい可能性 ・ 住み続けたいとは思いますが、生活の不便さや働くところの少なさが課題に思う ■ 若者の買い物のニーズを満たす機能の充足度が低く、定住化の阻害要因の一因となっている ・ 北秋田市では若者向けの洋服などほしいものが売っておらず、不便さを感じている。そのため、現時点では、あまり住み続けたいとは思わない

3. まちの将来像および今後の課題（2/3）

中学生の目線で思い描くまちの将来像について、各班（3班）から意見をいただきました。多様な人の暮らしやすさや活気溢れるまちが求められていることを確認できました

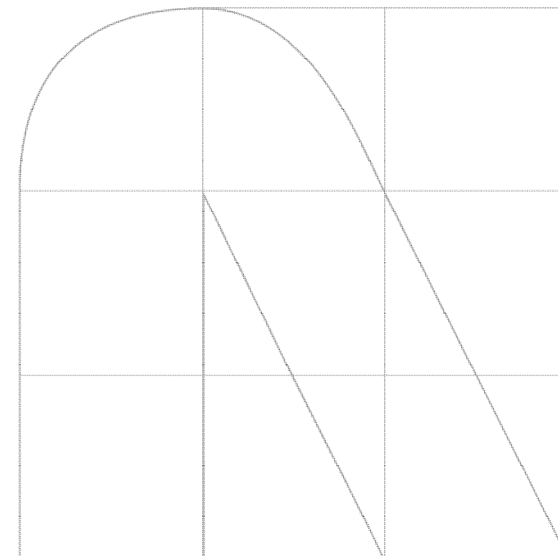
	意見
まちの 将来像	■ 多様な人が住みやすいまち ・ 障害者施設数が多く、多様性の取り組みが少ないとデータから確認できるので、多様な人を受け入れられるような取り組みを増やすことで、誰に対しても平等なまちになってほしい ・ 人口は減っていくと思うが、今の住みやすいまちを維持してほしい ・ 単身高齢者が困らずに過ごせるまちにしたい ・ 高齢者や学生など車を運転できない人が不便さを感じないまちにしたい ・ 移動販売車などにより買い物が便利にできるまちが良い ■ にぎやかで明るいまち ・ 住んでる人にが明るく過ごせるまちであって欲しい ・ にぎやかで、観光客に魅力的に思ってもらえるまちにしたい ■ 伝統を残すことができるまち ・ 後継者不足からお祭りなどが減ってきているので、伝統的な行事を残していきたい ■ 自然環境を活用できるまち ・ 森吉山を始め観光資源、自然が強みと思うので 自然を活かした産業・会社が増えてほしい ・ 杉は多いが、住宅需要が減少しているので他の用途をかんがえなければならない。既にまげわっぱなどが名物としてはあるが、椅子やその他木工などの用途を拡大出来たらよい

3. まちの将来像および今後の課題（3/3）

前頁で描いたまちの将来像の実現に向けて「必要なこと、できること」に関して、意見をいただきました

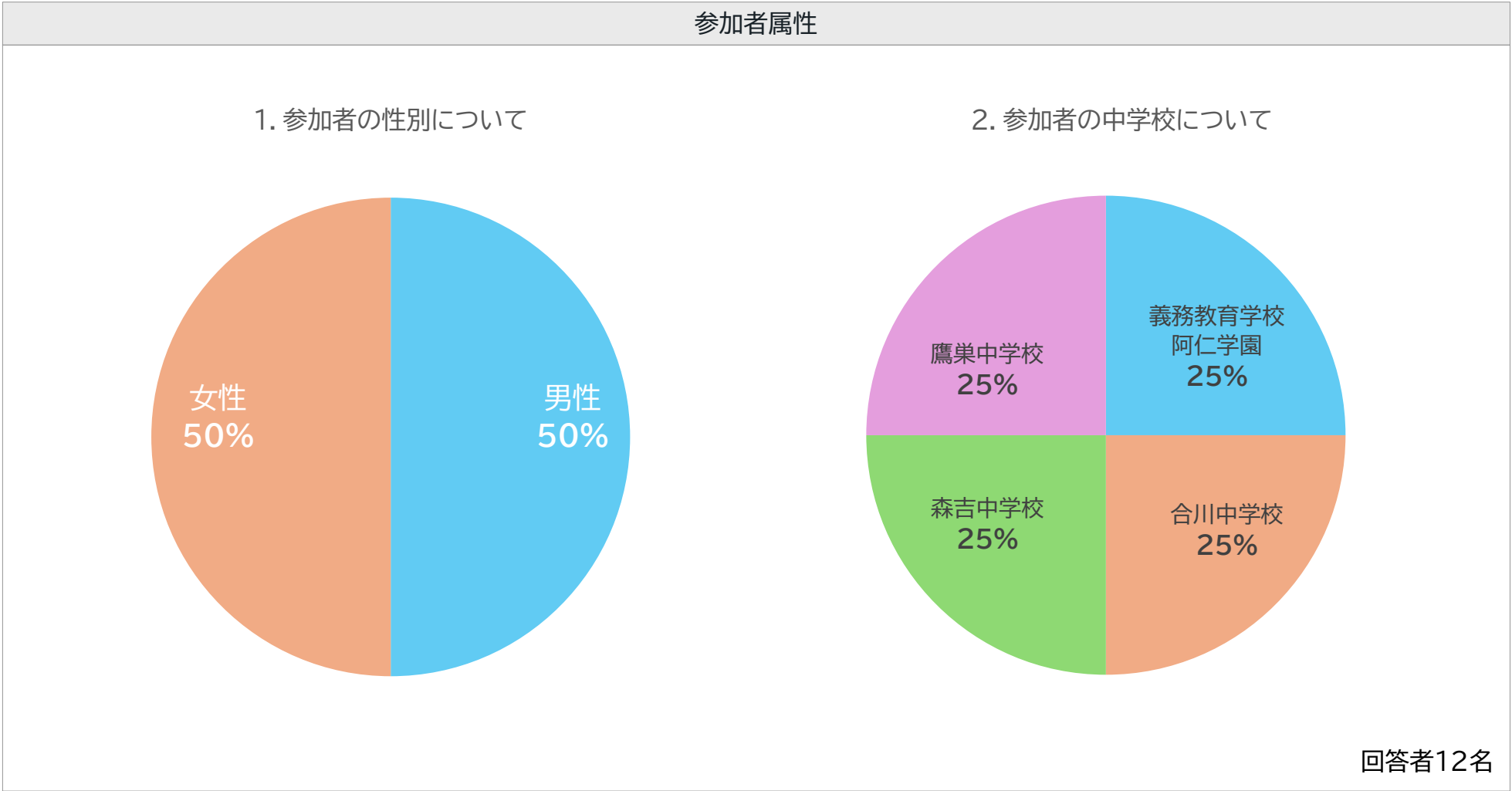
	意見
まちの将来像 実現のために 「必要なこと」、 「できること」	■ 外部へのまちの魅力発信が必要 ・ イルミネーションを導入し、まちを明るくしてほしい - シャッター街を照らすことで、人を呼び込めるのではないか ・ 地元の良さを对外発信し、知名度を向上させてほしい - 地元の学生が北秋田市の良さをSNSなどで発信することで、魅力を知ってもらえるのではないか - インパクトのある店を誘致し発信することで、当市の知名度が向上し観光客数が増えるのではないか ■ 若い世代が働ける場づくりが必要 ・ 若者（勤労世代）が増えていくように仕事の選択肢などを増やして、賑わいづくりをしてほしい ■ 豊かな森林資源を守るための環境保全行動に取り組みたい ・ 森を活かした産業を活性化させてほしい。その環境を守るために、身近な行動として節水などに取り組みたい ・ 自然環境という住民の暮らしやすさを維持するために、リサイクルや環境保全に良いことに取組みたい ■ 地域のつながりを多世代に拡大し、活気あるまちにしたい ・ 地域の方々、特に高齢者の人との関わりを増やし、健康づくりや地域の活気のために、自分から積極的に挨拶して元気なまちにしたい

【参考】参加者アンケート集計結果



ワークショップ参加者アンケート集計結果 - 参加者属性

第3次北秋田市総合計画策定に係る中学生ワークショップでは、市内の各中学校からご参加いただき、12名の生徒からワークショップや総合計画策定に関するご意見をいただきました

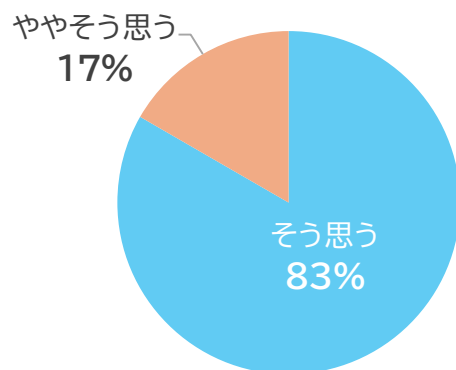


ワークショップ参加者アンケート集計結果 - ワークショップへのご意見

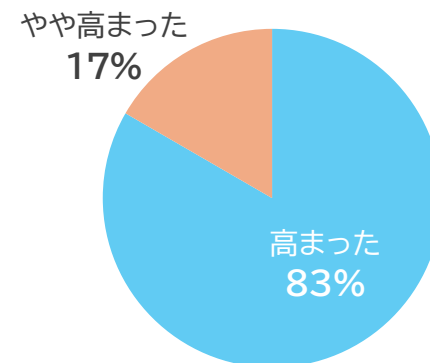
ワークショップでは活発な議論が行われワークショップや北秋田市のまちづくりに対するご意見をいただくことができました

ワークショップへのご意見(全4問)

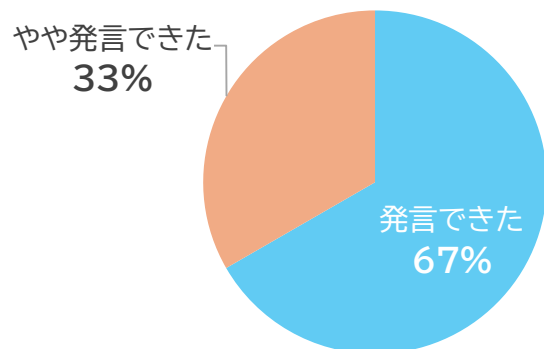
問1 本日のワークショップに参加してよかったと思いますか



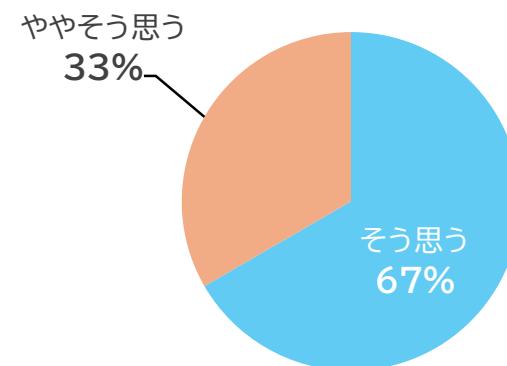
問3 北秋田市のまちづくりに対する関心は高まりましたか



問2 本日のワークショップでは自分の意見を発言できましたか



問4 こうした機会があればまた参加したいと思いますか



回答者12名

ワークショップ参加者アンケート集計結果 - 分野別の主なご意見

以下の通り様々な分野に関してご意見をお寄せいただきました

分野	分野別の主なご意見（自由記述）
雇用	- 小・中学生が仕事を体験する機会が増えてほしい - 進学などで一度はこの地域を離れるが、もし自分に合った職場があれば戻ってきて働きたい
教育	阿仁学園では地域を活性化するための案を考える機会が多くあるため、ワークショップではその経験を活かして話し合いに参加できた
買い物	阿仁地区ではショッピングができないという意見もあり、移動商売などがあれば買い物に行きにくい人でもショッピングができると思った
交通アクセス	北秋田市にできれば住み続けたいが、自分が行きたい施設が少なく不便だと感じることもある
移住・定住	北秋田市の方々はとても温かくぬくもりのある方ばかりで、訪れた方も住みたくなると思う
観光	- データから少子高齢化が進んでいると分かったため、「伝統芸能が見たい！」や「バター餅が人気だから食べに行きたい！」など若者が来る目的となるものを増やしてほしい - 伝統芸能に魅力を感じているため、なくなってしまった獅子踊りや祭りが再開、増えればより活気が出るのではないかと - バター餅のBM-1グランプリというイベントが好評だったため、再開してほしい - バター餅はぜひ多くの人に食べていただきたい - 統計から、北秋田市を訪れる人は阿仁の道の駅にも来ていることがわかり、意外に思う
自然環境	- 自分でも節電・節水をして自然を守り、その自然を活かした産業により北秋田市を盛り上げてほしい - 今回のワークショップを活かして北秋田市のために身近に出来る節水やボランティア活動などから取り組んでいきたい
地域コミュニティ	まちの将来像「住民が主役のもりのまち」を実現するために、地域の方を学校行事に参加いただくことで、地域の結びつきを強化することが良いと思う

回答者12名

ワークショップ参加者アンケート集計結果 - ワークショップ等へのご意見・ご感想

今後のワークショップや総合計画の検討に活用させていただきます

ワークショップ等へのご意見・ご感想（自由記述）

ワークショップに対する感想

- 北秋田市の人口が何人か知らなかったため、「データで見る北秋田市」で、北秋田市のことを知るいい機会になった
- 北秋田市の課題をできるだけ減らし良いところを伸ばしてほしい
- 北秋田市は自然が良いという考えしかなかったが、統計で住居環境や自己効力感などの数値が高いということがわかった
- 14年間もこのまちに住んでいたのに資料からは知らないことが多くあり、驚きのある会だった
- このような企画に初めて参加し、貴重な体験ができ楽しかった
- 北秋田市について興味が高まる、和気あいあいとした楽しいワークショップだった
- 普段他人と北秋田市について深く考えることがなかったが、ワークショップを通して今北秋田市に必要なことや良い点が見つかり、自分の住む地域について深く考えることができるいい機会になった
- 進行の方が親切で積極的に自分の意見を言うことができた
- 他の学校の人と話し合うことで普段聞くことができない意見があり貴重な会だった

総合計画策定に関するご意見

- これからもっと住みやすく活気あふれる北秋田市になってほしい
- またこのような会を開催して住民の意見を聞くことが良いと思う。住民に対してアンケートを取ることも有効ではないか
- 北秋田市で多くの中学生が議論に参加できるような機会を作ること、意見が集まりやすくなるだけではなく、参加者自身も北秋田市について考えるきっかけになるのではないかな

回答者12名

NTT Data

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society